

キャラクター名
真峰 花楓

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	UGNチルドレン
	モルフェウス				
オプション	ノイマン	年齢	17	性別	女
覚醒	無知	衝動	嫌悪	初期侵食率	30 %
出自	義理の両親	経験	心の壁	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	17
感覚	5	1	2			8	(非装備時)	17
精神	1	0	0			1	戦闘移動	22
社会	1	0	0			1	全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術: 料理	1		知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ハンドレッドガンズ	射撃	8r+4	0	5		
DualBarrett	射撃	8r	0	8		C値8 侵蝕率10 1+2+5
100↑	射撃	8r+1	0	10		C値7 侵蝕率10
CreatingTwinGuns	射撃	8r+4	0	10		武器生成 侵蝕値6 3+4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

所持品	
コネ: UGN幹部	
スマホ	
アクセサリ	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 業師	P	N		
流戸部	P 尽力	N 不安		
教官	P 尊敬	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C: エンジェルハイロウ	2	2	メジャー					シンドローム
効果: クリティカル値-LV(下限値7)								
小さな塵	4	2	メジャー	武器		対決		
効果: 攻撃力+[LV*2]								
ハンドレッドガンズ	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 命中0 攻撃力LV+4 射程30m								
ダブルクリエイト	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 制作する個数を二つにする								
マルチウェポン	1	3	メジャー	武器		対決		
効果: 武器の攻撃力、効果を合計する								
サポートデバイス	2	6	セッアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果: ダイス+LV*2 1シナリオ3回 【感覚】								
マスヴィジョン	3	4+2	メジャー			対決	100↑	
効果: 攻撃力+LV*5 1シナリオ3回								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

支部長の仕事や雑務を押し付けられる犠牲者の"一人"
空市支部におけるデスクワークの大半を文句ひとつ言わずこなす、堅苦しい雰囲気身を纏う人物。
支部では誰に対しても常に敬語で、表情の変化に乏しい。
過去にあったことのせいで成長が止まってしまっているため同年代の仲間と比べて小さい。

～生きてる意味なんてないと思ってた
こんな世の中で生きるぐらいなら死んだほうがいいって真剣に考えてた～

いつ頃だったか、もう覚えてないけどある日突然オーヴァードに覚醒してから世界が変わった。
いい方向に変われば良かった、でも現実はずっと。
周りの人たちは私を化物と呼んだ、親でさえ味方じゃなくなった。
それからは虐待の毎日だった、暴力に食事抜きその他にもいろいろあったと思うけど思い出したくない。
このままじゃいつか殺されると思った、だから逃げ出した。
正直もう死んでもいいと思ってたけど誰かに殺されるのは我慢できなかった。
当てなんてあるわけなくてこのまま野垂れ死にかななんて思ってた時にあの人が目の前に現れた。
死にかけてた私にただ一言「来い」と言った。
不思議と目の前にいるこの人は信用できると感じた、最後にもう一度だけ人を信じてみようと思わせてくれた。
ぶっきらぼうだけどここまで育ててくれたあの人には本当に感謝してる。
今はUGNで働いてる。ちょっと前まではあの人と前線に行ったりしたけど最近人が増えたおかげで少なくなった。
代わりにデスクワークがやたら回ってくるけど…まあ、いいか。
いい加減人に慣れないのを直したい。何とかしようとしても昔の記憶が邪魔をして人に対する恐怖が取れない。